

# 生き方リサーチ

豊かだけど不安な中で――

一方、男女ともに増加傾向にあるのは、「自分の子どもや家庭をもてる」という項目である。「結婚」に対する社会的なプレッシャーが以前ほど強くはなくなり、「生活上の利便性」などの利点が魅力を失う中、「子どもをもつ」ということが、直接的に結婚を動機付ける要因として重みを増してきていることがわかる。子どもができたことを機に入籍するいわゆる「できちゃった婚」も増えている。

「独身の自由な生活を失うのは嫌。結婚して生活が楽になるわけでもないし。子どもが産めるうちには結婚したいけど、それまでに、じっくり相手を探すつもり」……20代後半の友人の言葉は、未婚者の声を代弁したのと言えそう。

「理想の相手出現を待ち、晩婚化が進んだとはいえ、未婚者の9割は「いずれは結婚するつもり」と答えている。結婚するつもりがないわけではないのだ。

「必要ない」「利点」感じないでは、なぜ、結婚を先延ばしにする未婚者が増えているのだろうか。その理由のひとつは、結婚の「必要性」や「利点」が感じられにくくなっていることだ。未婚者の考える「結婚の利点」の時系列的な変化を見ると、過去10年間で「社会的な信用を得たり、周囲と対等になれる」や、「生活上便利になる」「周囲や親の期待に応えられる」といった点を挙げる人が減っている(※)。

一方、男女ともに増加傾向にあるのは、「自分の子どもや家庭をもてる」という項目である。「結婚」に対する社会的なプレッシャーが以前ほど強くはなくなり、「生活上の利便性」などの利点が魅力を失う中、「子どもをもつ」ということが、直接的に結婚を動機付ける要因として重みを増してきていることがわかる。子どもができたことを機に入籍するいわゆる「できちゃった婚」も増えている。



ベンチでくつろぐカップル(本文とは関係ありません)

「彼が、『何で昨日メールしなかったんだ』って怒るの。優先席の近くだったから、っていうと、『移動すればいいじゃないか。電車ですでなくとも、家に着いたらできるだろう』って。家に着いたら私は疲れきっていて、メールする気になれない。いつもこんな感じで、もうどうしたらいいかわからなくて。彼と私は合わない。たぶん結婚は無理だと思う」。3年付き合った末、彼女たちは別れを選んだ。最後に彼は「ずっと寂しかった」とぼつりともらした。彼女は、彼が一通のメールにこだわる理由を理解しようとはしなかったし、彼は、メール

「結婚」は描けない……現在の恋人との結婚を考えていない未婚者の割合は、20代前半では3割を超え、20代後半・30代でも約2割を占めている(※)。「相手探し」の期間が長期化したことにより、か

「彼が、『何で昨日メールしなかったんだ』って怒るの。優先席の近くだったから、っていうと、『移動すればいいじゃないか。電車ですでなくとも、家に着いたらできるだろう』って。家に着いたら私は疲れきっていて、メールする気になれない。いつもこんな感じで、もうどうしたらいいかわからなくて。彼と私は合わない。たぶん結婚は無理だと思う」。3年付き合った末、彼女たちは別れを選んだ。最後に彼は「ずっと寂しかった」とぼつりともらした。彼女は、彼が一通のメールにこだわる理由を理解しようとはしなかったし、彼は、メール

## 「結婚」――歩踏み出せない理由

9割弱は「いずれは結婚するつもり」と答えている。結婚するつもりがないわけではないのだ。

### 「必要性」「利点」感じない

では、なぜ、結婚を先延ばしにする未婚者が増えているのだろうか。その理由のひとつは、結婚の「必要性」や「利点」が感じられにくくなっていることだ。未婚者の考える「結婚の利点」の時系列的な変化を見ると、過去10年間で「社会的な信用を得たり、周囲と対等になれる」や、「生活上便利になる」「周囲や親の期待に応えられる」といった点を挙げる人が減っている(※)。

「理想の相手出現を待ち、晩婚化が進んだとはいえ、未婚者の9割は「いずれは結婚するつもり」と、結婚の意思を示している。そうだとすれば、変わったのは結婚の「きっかけ」や「タイミング」だけなのだろうか。身の回りを見渡すと、どうもそうではないようだ。「相手探し」の期間が長期化したことで、実際のあり方そのものも変わってきたのではないかと、という印象を受ける。

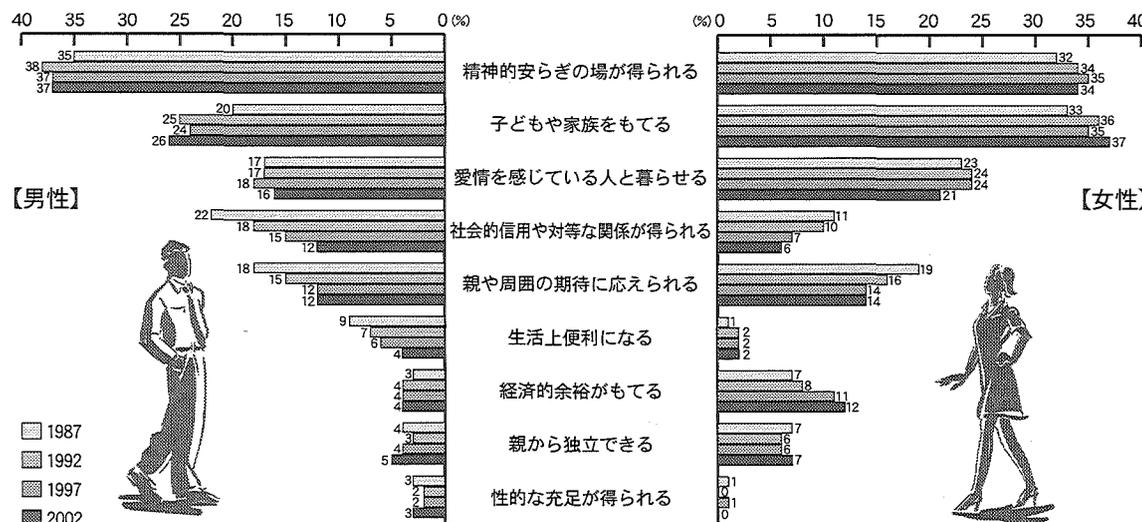
「理想の相手出現を待ち、晩婚化が進んだとはいえ、未婚者の9割は「いずれは結婚するつもり」と、結婚の意思を示している。そうだとすれば、変わったのは結婚の「きっかけ」や「タイミング」だけなのだろうか。身の回りを見渡すと、どうもそうではないようだ。「相手探し」の期間が長期化したことで、実際のあり方そのものも変わってきたのではないかと、という印象を受ける。

### 「続くこと」を前提としない関係

「続くこと」を前提とした関係と、「続くこと」を前提としない関係の違い。それは、お互いの考え方や価値観にずれが生じたときに浮き彫りになる。「ずれ」を乗り越え、関係を続けていくためには、話し合い、お互いに歩み寄ることが求められる。その過程で時にはぶつかり合ったり、二人のうちいずれか、あるいは双方がそれまでの考え方ややり方を変える必要に迫られることもある。しかし、「続

### 未婚者の考える結婚の「利点」

国立社会保障・人口問題研究所 第12回出生動向基本調査 2002年 (有効票数9,686)  
 ◇18～34歳の未婚者のうち何%が各項目を主要な結婚の利点(二つまで選択)と考えているかを示す



くこと」を前提としない関係の場合には必ずしもそうとは限らない。合わなければ、もつと合う人を探せばいい。ぶつかることを厭い、自分の考え方ややり方を変えることを拒むカップルが増えているのではないか。

「彼が、『何で昨日メールしなかったんだ』って怒るの。優先席の近くだったから、っていうと、『移動すればいいじゃないか。電車ですでなくとも、家に着いたらできるだろう』って。家に着いたら私は疲れきっていて、メールする気になれない。いつもこんな感じで、もうどうしたらいいかわからなくて。彼と私は合わない。たぶん結婚は無理だと思う」。3年付き合った末、彼女たちは別れを選んだ。最後に彼は「ずっと寂しかった」とぼつりともらした。彼女は、彼が一通のメールにこだわる理由を理解しようとはしなかったし、彼は、メール

長い「相手探し」の旅路にある未婚者が本当に必要としているのは、「自分の希望にぴったり合う相手」ではなく、相手と向き合い、ぶつかり合い、「ずれ」を乗り越える経験なのではないだろうか。「相手探し」を乗り越える経験(オムロン・ヒューマンリサーチ研究所 鷲尾梓)